

トム・プロジェクト プロデュース

風間杜夫ひとり芝居

正義の味方

作 水谷龍二

作・演出 …………… 水谷龍二

美術 …………… 松野 潤

照明 …………… 五十嵐 正夫

音響 …………… 原島 正治

衣裳 …………… 樋口 藍

かつら …………… 太陽かつら店

舞台監督 …………… 松本 仁志

プロデューサー …………… 岡田 潔

企画制作 …………… トム・プロジェクト

協力 …………… オフィスカザマ

キヤスト

大角 卯三郎
………
風間 杜夫

甲斐バンドの「HERO」のイントロが流れ、いいところで舞台センターにスポット。ロックシンガーを夢想する大角卯三郎のオンステージが始まる。

卯三郎 ♪ 「HERO」 甲斐バンド

一番の歌詞を歌う

歌い終わり、で暗転。卯三郎が現実に戻り、ガマの油の口上となる。

卯三郎の声 さあさあ、お立ちあい、ご用といそぎのない方は、ゆつくりと聞いておいで。遠目山越し笠のうち、着かざる時は、ものの文色、理方、よしあしがとんとがわからない。山寺の鐘、ごうごうと鳴るといえど、童児来って鐘に撞木をあてざれば、鐘が鳴るやら撞木が鳴るやら、とんとその音色が分からない。

明りが入ると、男湯の縁台に卯三郎が座っている。

卯三郎 だがお立ちあい、てまえ持ちいだしたるは、四六のガマだ、四六のガマ。四六、五六はどこでわかる。前足の指が四本、あと足が六本、これを名づけて墓蟬噪は四六のガマ。このガマの油をとるのには、四方に鏡を張り、下に金網を引く、

その中にガマを追いこむ。ガマは、おのれの姿が四方の鏡にうつり、おのれでおのれがおどろき、身体から油汗を流す。これを下の金網にてすきとり、三七二十一日のあいだ、柳の小枝をもつて、とろーり、とろりと煮つめたるがこのガマの油だ。赤いは辰砂椰子の油、てれめんでえかにまんでえか、このガマの油の効能は、出痔、いぼ痔、はしり痔、よこね、がんがさ、そのほか、はれものいっさいに効くよ。まだある、刃物の切れ味を止める、刃物の切れ味を。(女子大生に向かって)こんな風にガマの油は始まるんだけどね。面白い? ああ、そう。続きが聞きたい? じゃ、やるか。

ここは下町の銭湯『大正湯』。

舞台上手寄り奥に番台、上手が女湯、下手が男湯の脱衣場。

卯三郎

だが、このガマの油屋さんお酒が好きで、一杯飲んで帰ろうっていうのがそうまいりません。一杯が二杯、三杯、四杯、へべれけに酔っぱらったが、欲ってえ奴は忘れません

で、もう一儲け、儲けようってんで、

「うくん、うくん、さあ、さあさあ、お立ちあいのうちに
ご用とおいそぎの方は：ゆつくりと聞いておいで：いや、
おいそぎでない方だ：ゆつくりと：聞いて：いいかい、遠
目山越し笠の：：そと：：いや、笠のうちだあ：：ものの
：文色：理方がわからない。山寺の鐘はこうこうと：：あ
れっ、口からなんかスルメがでてきやがった：：さてお立
ちあい、てまえ取り出したのは、スルメ：：いや、スルメ
ではない：：えーと：：ヒキセンソウ一六のガマ：：一六
じゃないよ、一六は質屋だ、お立合い。そうそう、四六、
四六のガマだ。四六、五六はどこでわかる。前足が二本で、
あと足が八本だ：：」

「なにいつてやんでえ。八本ありやあ、たこじゃねえか」
「そのたこで一ぱいやって：：うるさい！子ども！なに言
ってんだい、酔っぱらってんじやねえや！う、うるさい、
子どもは向こう：行ってる、へええ、うるさい子ども：こ
のガマの油を取るのには、四方に金網を張る、下に鏡を：
ガマはこの中に入ると、ガマはおのが姿を四方の金網に：

いやア、こりやア、あべこべだ、お立ちあい。てれめんて
いかにまんでいか。ガマの油の効能は切り傷、出痔、いぼ
痔、よこね、がんがさ、そのほか：はれものいっさいに効
くよ：。：さあ、お立ちあい。刃物の切れ味を止める：刃
物の：てまえ取りいだしたるは、ぬけば玉散る：氷の刃だ。
かように切れる業物でも、ガマの油をひとつつけるとき
は、お立ちあい、たったひとつつける時は、なまくら同
様になる、お立ちあい、はあ：お立ちあい、ほら、押し
もひいても切れない：はあ、なにお、切れたア？いやア、
押ししても：はア、切れてる？そんなことア、ないよオ：押
してもひいても：はア、押ししてもひいても、切れたア！
切れた時は、かように拭きとおす。切れた時は、かよう
に拭きとおす、拭きとおす、かように拭きとおす、お立ち
あい。切れたら、拭きとおす：：大変出るねエ、これは！
お立ちあい、大変出るヨオ、これはア。拭きとおす、拭き
とおす、薬をたったひとつつける時は、煙草一服のむか
のまない内に：血が止まらないねエ、これはア：止まらな
ければ又つける、お立ちあい：止まらぬときは又つける：

ふたつけ付けければ必ず止まら…止まらないなア、これは…
こりや大変だぞ、お立ちあい…こりやア、こりや大変だぞ、
こりやア、みんな なすりこめよう、こりや、みんな なす
りこめやア、みんな なすりこめば必ず止まら…ないなア」
「何言ってやがんだい！止まらない、止まらないって青い
顔してるよ。油屋どうした！？」
「お立ちあいの中に…血止めの薬はないか？」

卯三郎、頭を下げると、取材できている学生が拍手。

卯三郎

——そう、これを北村二等兵がジャングルの中でやってく
れたんだよ。…聞きながらさ…（思い出し）笑いなが
ら死んでった奴もいたよ。俺たちも明日は我が身と思いな
がら…でもその時間は戦争のことも忘れて笑ってた。噺
は玄人はだしだったね。年は十九、無事に内地へ帰れたら、
春風亭柳好の門を叩くって言った。そうそう、この「ガ
マの油」はその柳好の十八番だったんだ。——ほんとに？
俺のは素人のこざかしい芸だよ。ああ、何でも訊いてくれ。

——てれめんでえかにまんでえか、さすが東大の学生さんは目の付け所が違うね、てれめんでえかにまんでえか、これは勿論日本語じゃねえよ、てれめんでえかつてのは、スペイン語でテレピン油のことだ。まんでえかつてのは、ポルトガル語で豚の油のことだ。——まだ十分や十五分、大丈夫だよ。そうかい、用事があるんじゃないか。あ、デート？ そんなんじゃないの？ じゃあ明日も同じ時間に、ああ、こちらこそよろしく。あ、そうそう手土産なんかいらねえからね、俺はいつかは若い連中に、あの戦争の事を話したかったんだ。へえー（とボイスレコーダーを手にして）文明はどんどん進んでいくねえ、これに何百時間も録音できるんだもんなあ、はい。

と返すと男湯の戸がガラガラと開く。

卯三郎

おっ、早えな今日は、うちは三時開店だよ。（学生に）あ、おびえなくて大丈夫だよ、このジジイはうちの常連、余命半年って言われてから十二年も生きてる化け物だ。なっ、

何言ってやがる、カーリングのストーンみてえな頭しやが
って。握手なんかしないでいいんだよ（と手を払い）こち
らはね、世が世ならオメエなんか畏れ多くて近寄れねえ、
東京大学の学生さんだ。下れ下がれ。脱ぐんじゃねえよま
だ（学生に）あ、もう行く？　なんか汚ねえモノ見せちゃ
ってゴメンね。

学生帰っていく。

卯三郎

（戸口で）気をつけてね。さよなら、うん、ありがとう。

と手を振って見送り、卯三郎は戸を閉める。

卯三郎

美人だろ？　そう、俺も最初見た時はびっくりしたよ、菊
川怜かと思っちゃったよ。昔はな、東大の女子大生ってい
ったら、ホラ、歌、歌ってた……

♪加藤登紀子「知床旅情」の冒頭1フレーズを歌うま、いいか。
しかしあれだな、天は二物を与えないってのは嘘だな、与
えてる二物までは。そこいくとおめえの一物は見当たらね

えな、ハハハ、あつたあつた、あそこがデカイ、ありやイチモツか。おい！ 何だか元気ねえな、どうしたんだよ、また息子の嫁とケンカしたな？ 凶星だろ。やめとけやめとけ、あの嫁は、腕力も強いが気も強い、おめえが逆立ちしたって勝てねえよ。ハイハイ言う事聞いてりやいいんだよ。おめえなんかもうじきお迎えがくるんだから、だろ？ ちよつとぐらい辛抱しろ、そしたら葬式だってまともに出してもらえるつてもんだよ。辛い時はよ、軍隊を思い出せ、あれほどの地獄は……行ってない？ おめえのトシなんか知らねえよッ、知らねえけど、あれ？ 軍隊の話、おめえとしたことなかったか……。

番台の電話が鳴る。

卯三郎

(受話器を取り)はい、大正湯でござ……お前か、金ならねえよ。そういう言い方もこういう言い方もねえんだよ。金の話だろ？ だから、ねえッ、これから開店なんだ、切るぞ。(と切って)ん？ 馬鹿息子だよ。そうか、ギリギリか、

そりや運がいいや、俺なんかついてねえよ、二回も赤紙きやがった。そうだよ、大正生まれが一番ワリくってるんだよ、冗談じゃねえよまったく。

番台の電話が鳴る。

卯三郎

しつけえなへと受話器を取って「ねえもんは、あ、徳さんか、悪い悪い、なんか動きがあつたかい？ ねえか……敵もしぶといな、やるよ俺一人だつて、あんたは監視だけしつかり頼むよ。はいはい、じゃな。(と切り)え？ そう、モグラ退治だ、これも世のため人のためよ、おめえなんか足手まといだよ！ へ開店の音楽が流れる」おつ、開店だ。

と女湯へ行こうとするが、なかなか戸が開かない。

卯三郎は漸く番台へ。開店の音楽はクラシック。

卯三郎

よっこい庄一と。あ、そういえば小野田少尉も死んじまつたな。知ってるか？ あの人、陸軍中野学校出身だよ、ほ

ら、映画で市川雷蔵がやったろ（女湯を向いて）おお、クララ、今日も一日その笑顔だよ、愛子さん、この開店の音楽だけどさ、そろそろ変えない？ いやどんなのって、思い切って青江三奈とか。（女湯の戸が開いて）いらっしやいませ——。はい、五十円おつり（と渡し、着替えを覗く）あ、昨日さ、八十七番出てたからさ、今日も出てるかも。いや全然、負けっぱなし——。そのイヤリングいいね、忘れないでよー（戸が開いて）おばあちゃん、いらっしやい。ちよつと、お金ちようだいよ。うちタダじゃないんだから！

※時間経過（短く暗転）銭湯ノイズ、照明変化でその日の夜へ。卯三郎、番台でウトウトしている。番台上の昼間用の時計が夜用の時計に変わる。

卯三郎

（起きて）あー寝ちまったな、お、もうこんな時間か……（と番台を降り）……よし、始めるか、皆さん、お待ちかねの、なに、待ってねえ？ 馬鹿野郎、毎度言ってるが、聞きたくねえ奴は帰っていいんだぞ。（とホワイトボードを出してきて）無理に聞いてもらっても仕方がねえからな。今日も一

日の疲れを銭湯で洗い流してくれた諸君、ご苦勞様でした。体がきれいになれば、心もきれいになる。銭湯は日本の文化、憩いの場ってな。今日は若い諸君が多いな、おい、人の話聞こうってときはパンツぐらいはけよ、いくら裸の付き合いとはいえ礼儀つてもんがあるだろ。さて、お立ちあい、日本を憂いて早半世紀、日本はこのままでいいのか、いいわけがない！ 誰だ今、ヨツ内田裕也って言ったのは。言っとくが俺のほうが先輩だ、何を隠そう大正生まれの九十五歳、子供五人孫が十一人ひ孫が、そんな話はいいや。とにかく間違いだらけの世の中だ、ボーツと生きてちや駄目だよ。まずはこの問題だ。あ、その前に元総理の森さん、新国立競技場の聖火台問題では言ってくれたね。一番悪いのは馳です。相変わらず歯に衣着せぬ発言、嬉しいねえ。しかし、どうせ言うなら(音楽)一番悪いのは……ヒロシです。私は悪くなくとです。ヒロシです……ヒロシです……。ま、森さんには今後も期待するとしてだ。これはまずいだろ(とボードに公用車の絵を描き)やってくれたね、舛添東京都知事！毎週毎週公用車で湯河原の別荘通い。股関節の大手術をしたから、別荘の広いお風呂で足を伸ばしたかった？ 何をたわけたことを言ってるんだ！ 舛添！ そんなに足を伸ばしたいなら銭湯に來い！ 銭湯に。偉そうに

してるだけじゃだめだよ、庶民の声をじかに聞かなくちゃ。そうだろ？ 少しはあの人を見習ってほしいねえ、ホラ、この間来日したあの人、えーあれだよ、あのホラ、虫に刺された時に、そうムヒカ(と書き)ウルグアイの前大統領。あの人は偉いねえ。その青年よく聞け。彼はこう言ってる「貧乏とは、少ししか持っていない事ではなく、もっともっと欲しがることだ」都知事！ 一泊二十万のスイートルームになんか泊まってないで、ムヒカさんの爪の垢を煎じて飲め！ しかし諸君、舛添都知事が何故あのような贅沢を好むのか、実はこれには訳がある！ あの方は早くにお父さんを亡くしてね、少年時代はずいぶん苦勞した。苦学の末に東大法学部だよ。言うならば貧困から這い上がった逸材だ。小さい時の夢は、温泉のある土地に別荘を建て、湯水のごとくお金を使うこと。夢が叶ったってわけだよ。これは俺が独自に仕入れた情報だけ……聞きたいか、よし今日は特別に教えてやる。その別荘の温泉に書いてあったらしいよ、税金かけ流しと……。次行ってみよう！

とケーシー高峰風になっっていく。

卯三郎

情けないねえ、しっかりしてくれッ、稀勢の里！ 琴奨菊

も優勝した後が駄目だったな。それと先場所の千秋楽、優勝した白鵬に対するあのヤジはよくねえ、恥ずかしいよ、日本人として。それにしても強いねえ、モンゴル力士は。だけどね諸君、何が違うんだ？ モンゴル力士と日本人力士、俺も寝ないで考えた、その結果、お、その眼鏡のあんちゃん(と指す)稽古の量、違う、それじゃねえんだ、根性？ それは少しあるが決定的に違うのが、ん？食事？惜しい！ 食事惜しい、問題は食事の時間だってことが判明した。この三横綱以外の部屋は朝稽古の後、風呂に入つて、チャankoを囲むのが十一時から十二時(と書き)ところがこの三横綱の部屋は、それより三十分遅い。モンゴルには有名な英雄がいるな、チンギス・カーン、別名ジンギス・ハーン、ジューニジ・ハーン。……これはちよつと苦しかったな。最後はこれだ、日本死ね！(とボードに書き)知ってるよな、保育園の審査に落ちた母親の魂の叫びだ。これは大きな問題だよ、働くお母さんにとつちや。一億総活躍社会って言ってる安倍ちゃんよ！ どう考えてんだこの問題を。ちゃんと考えてくれよ。保育所の数も足りなきゃ、保育士の数も足りないんだよ。だけどアレだってな、保育士の給料って安いらしいな。子供の面倒をみるのは大変なのに、何で給料安いんだ？ こういう仕事にこそ、国がだ

な、もつと援助しなきゃいけないんじゃないか？ だけど給料あげれば、それでいいのか。そうじゃない。もつと大事なことがある。奉仕の精神。医療、介護の現場も同じ。大事なのは奉仕の心。この分野で一歩リードしてる国がある。どこか、スペイン。ホーシのフラメンコ。

♪「星のフラメンコ」冒頭の1フレーズを歌う

西郷輝彦、いつまでも若いね。それはそれとして、次の選挙、お前ら騙されるなよ。政治家つてのは選挙前にはいいことばかり言うんだ。そうはイカのキンタマ、その手は桑名の焼き蛤だ。なんのことだかわからねえ？ まったく、なんのこっちゃ、抹茶に紅茶。面白い？ あそう、鶴は千年、亀は万年、隣の婆さんあと一年。もういつちよ？ やらねえよ、今日はここまで。御清聴ありがとうごさいます。〔と客を送り出し〕いつもありがとう。まっすぐけるんだぞ、湯冷めしちまうからな。ありがとうと、おめえ歯が黄色いな、ちゃんと磨けよ、女にもてねえぞ。はいはい、ありがと。

と送り出し、戸を閉める。

卯三郎専用のキヤスター付きの椅子に若者が一人、残っている。

卯三郎

あんちゃん、閉店の時間だよ。ん？ 見かけねえ顔だな、最近越してきたのか……そのイヤホン取れよ、あんちゃん。うちは十二時閉店なの、もう五分過ぎてんだろ。だからそのイヤホン取れって言ってんだろッ、……携帯で何やっているか知らねえけど、家へ帰ってやんな。それゲームか？ えっ？ つつた？ 足でもつつたのかよ？ 続きは家でやりや、えっ？ ツイッターって何だよ？……つぶやいてるの？ つぶやくってのは声に出すだろ……つぶやくのを、つぶやかないのがツイッター？ 何だそれ、わけ分かんねえな。うるせえって、それが目上の者に対する態度か！（相手を見上げ）背ばっかヒヨロヒヨロ伸びやがって……ちよつと待て！ これも何かの縁だ、な、まあいいから座れ、どうせ家帰ったってまた携帯いじくるんだろ、そんなことばっかしてていいのか？ 人生なんてあつという間だぞ（と縁台に腰を下ろし）一分一秒をもっと有意義に使ったらどう？ 俺の若い時なんか戦争一色だ、好きなことなんかこれっぽっちもできやしねえ。

男湯の戸がゆっくり開き、閉まる。

卯三郎

それに比べりやオメエ、今は天国だ。え？ やろうと思えば何でもできるじゃねえか。ところで彼女はいるのかい？ ヒヒヒ……オメエ差し詰め草食系だな、分かるよ、大体携帯ばっかいいじくってる野郎は草食系と相場が決まってるんだッ。勿体ねえな、いい若いもんが女と何もしねえって……おい、女の口説き方を俺が教えてやる、ヒヒヒ……まずな、褒めるんだよ。どんな女だっていいところの一つや二つあるだろう？

卯三郎、気付かないまま暗転。

翌日の昼。

ラックの上のラジカセからラジオ体操が流れている。
卯三郎、自己流の体操を途中で切り上げ、テープを止めると、男湯の戸が開いてクララ入って来る。

卯三郎

おお、クララ。グッモーニン。おかしくないの、俺にとつちや昼が朝なんだから。毎朝起きるのは十一時、寝るのは五時、夜明けと共に眠りに着く、この生活をもう四十年続けてる。早寝早起きが健康のもと？ あんなの嘘っぱちだよ、遅寝遅起きでもこの通り元気だ。あの五木寛之もそうだよ、八十過ぎてもピンピンしてる。大体健康のために毎日四時間も五時間も歩いてるジジババがいるだろ、歩く為に生きてるのかってんだ。ママの具合はどうだ？ そうか、いいんだぞ、毎日電話しても、遠慮は要らねえよ、お前の学費生活費はこの大角卯三郎にドーンと任せとけ。いいかクララ、お前の第一義は、第一義分からねえか、ええと、

ファースト……ファースト……ターゲット。おお、通じたか、お前の第一義は日本でしっかり勉強してフィリピンの一流会社に入ることだ。よし、今日も頑張って風呂掃除！

戸が開いて女子大生入って来る。

卯三郎

（振り返って）おお、いつも時間ぴったりだね学生さんは。おっ髪切ったんだ。いやいや似合ってるよ。今日もお茶持参か、たまにはうちのコーヒー牛乳でも（と冷蔵庫の方へ）いいの？ あ、牛乳飲めないのか。じゃあ仕様がねえな……昨日はどこまで話したっけ？……あ、そうだ、部隊にいた面白い奴、それで落語の好きな北村二等兵の話、したんだったな。他に？ いや、いろんなのがいたけど……水木しげる？ ああ、鬼太郎の、いや、あの人はパプアニューギニアのラバウルだから。あ、元相撲取りがいたな、名前は忘れたが、四股名は覚えてる。足寄岩、そう出身が北海道の足寄、こいつは可哀想だったな、入隊した時、体重が百三十キロあったらしいんだが、一年で八十キロまで落ち

ちやつて、え？ やつてたよ戦時中も大相撲は。関取はさすがに召集されなかつたみてえだが、幕下以下は皆、なんたつて“進め一億火の玉だ”の時代だ。ま、あれだよ、関取が徴兵を免除されるのは分かるけどよ、許せねえのは、軍需景気で儲けた金持ちのバカ共だよ。あいつら裏から役人に手を回して徴兵を逃れてたんだ。地獄の沙汰も金次第つてやつだ。親、兄弟、お国のために言われるままに戦つて死んでつた連中は浮かばれねえよ。フン、まったく、正義もへつたくれもありやしねえよな。え？ あの戦争が正しかつたかどうか？

沈黙——。

卯三郎

それ聞くかやつぱり。あの戦争に行つた人間に、それ訊くのは酷だよ学生さん。だけど一つ言えることは、戦争なんてどこの国もみんな正しいと思つて戦つてるが正しい戦争なんかあるもんか。ただあの当時は信じ込まされたんだよな、お上によ、新聞ラジオも煽るだけ煽りやがつて……帝

国日本、暴走列車よ。しかしあれだな、世の中便利になりやいってもんじゃねえよ。俺はパソコンも携帯電話も持ってねえが、この通り生きてる楽しくな。生きられるんだよ、そんなもんでも。生身の人間相手にしねえでどうすんだよ、こうして相手の体温を感じながら(と学生の肩に両手を置く)ああ、ワリィワリィ。え？セックスハラスメント？いやいや、訴えないですよ？…コーヒー牛乳ホントにいらぬ？ あそう(と冷蔵庫の方へ)一本飲もうつと。あれ、なんの話、そうだよ足寄岩な。こいつも生きてりや間違いなく関取に……。

卯三郎、コーヒー牛乳を飲む。

卯三郎

そう、フィリピンへ送られたのは二度目の召集、最初は支那事変、学校で習ったろ？ ああ、今は日中戦争って言うのか。昭和十四年だ。まだこの頃は日本が優勢だったな。で、昭和十八年に除隊になって、少しはのんびりできるかなと思ったら、徴用に引っ張られ、軍需工場で働かされた。

召集令状が赤紙だろ、徴用の動員札状は白紙って言われてたんだ。ま、そんな話はいいか。元々？ 元々は……大工の息子よ、家はこのすぐ近くで、ガキの頃からこの銭湯にはよく来てた。そう、俺がここを買い取ったのはずっとずっと後の話だから。その辺のいきさつはおいおい話すとして、そう、徴用された昭和十八年の話をしよう。うん？ そうでもないよ、いい思い出だつてあるさ。そうだよな、戦地で俺たちがどんな悲惨な目にあつたかとか話してみたところ、暗い気持ちになるだけだもんな。いい思い出、あつたよ。昭和十八年、まだB 29の空襲が始まる前だ。好きな娘がいてな、ユキさんと言うんだけど相思相愛、幼馴染みがいっしか大人になって胸ときめかす関係になった。昭和十八年の二月……。

藤島一郎の「丘を越えて」が流れてきて暗転。

ラジカセが昔のラジオに変わりスポーツが当たる。

唄終わりで当時のラジオ番組が始まる。

（徳川夢声のラジオ小説「宮本武蔵」とか）

昭和十八年二月の銭湯「大正湯」。

壁のポスターが当時のものに『ほしがりません勝つまでは』『撃ちして止まむ』等)

夜の八時ごろ、灯火管制で薄暗い。

国民服（帽子も）姿の卯三郎（二十四才）が入ってくる。

卯三郎

ユキちゃん、すごいもの手に入れたぞ（と後ろ手に羊羹を隠し持っている）なんだと思う？ そう食べ物。しばらく食べてないもの、ケーキじゃない、おいしいなア、食べるとこやってみせるから、よく見てて（と羊羹を食べる仕草）当たり前！（と出して）みんな食べて。いいよいいよ俺は。

大本営発表のニュース（ガダルカナル島の玉砕）になる。

卯三郎

(ラジオを消して) 何が転進せしめられたりだよ……玉砕だよ。(首を振って) ユキちゃん、大本營の発表なんて、信じちゃだめだよ。南方から復員した奴に聞いたんだから間違いない。日本は負けるよ。(周りを見回し) みんなそう思ってるさ、ただ口に出さないだけで。負けるんだったら早い方がいい。だってそうだろ、戦争が続けば続くほど、仲間が死んでいくんだよ。一億玉砕なんて冗談じゃない。赤紙? もうこないよ、そりや来たら行くしかないけど、大丈夫、俺は必ず生きて帰ってくる。満州でも何度か死にそうな目にあっただけど、帰ってきたら、俺は運がいいんだよ。それに……可愛い嫁さんを残して死ねるわけないだろ、あ、結婚の申し込み、まだだったな。(照れて) ユキちゃん、俺と結婚してくれ。……(ホツとして) そうか、よかった。あとはオヤジさんだな。反対は……しないよね? ただ何? 分かっているよ、婿養子の件だろ、大丈夫、俺は三男だし、うちの親もつべこべ言わないよ。この大正湯を二人でやっていこう。晴れてここへ座れるのか(と番台へ上がるうとする)と、ユキに引っ張られ) 分かっているよ、俺は釜

炊き。一番大変なのは釜掃除だろ、やるよ、やります煙突掃除も。式はどうしよう？　こんなご時世じゃ無理か、でも産めよ増やせよってお国は言ってるし、どうするユキちゃん、今つくる？　…慌てる事もないか、そうだな。ある日突然戦争が終わるかもしれないし。俺はねユキちゃん、今年一杯もつかどうかって思ってるんだ、本当のこと言う。もう無理だよ。土台アメリカなんかとドンパチ始めたのが無謀だったんだよ。そんな世界を相手に強がることないんだよ。日本は日本でつましくさ、やってりや…俺にはわからないよ、軍人、政治家が考えてることは。あ、そうだ、この間さ、ラジオで聴いたんだけど、田端義夫って知ってる？　そう「大利根月夜」。俺は会ってないけど満州にも来てるんだよ慰問で。同い年なんだよ…俺も歌手になりやよかったよ…。俺の方が上手いと思わない、田端義夫より。だろ？　今から？　コンクールとかやってんのかな…出てみようか、そうだよ、歌手になりや鉄砲持たないでマイク持てばいいんだし。（「国境の町」のイントロ薄く）ユキちゃん、俺ちよつと本気で歌うから聞いてくれる？

田端義夫より下手だったら歌手あきらめる。正直に言っ
よ、(姿勢をただし)では……(と一礼して)東海林太郎の
『国境の町』を歌いますッ。

卯三郎、東海林太郎ばりに直立不動で歌う。

♪『国境の町』の一番の歌詞を歌う。

一番を歌い終わった卯三郎、馬に乗って去る。
暗転。

大正湯近くの道。下手寄りに郵便ポストがある。

夕焼けに映える下町のシルエット。

下手から廃材を乗せたリヤカーを引いてくる卯三郎。

卯三郎、腕まくりしている。

昭和十九年の五月。

卯三郎

ユキちゃんにはいけるって太鼓判押してもらったけど、歌手はあきらめるよ。だってさ、歌謡コンクールの予定はないですかって問い合わせるたびに、この非常時に何言ってるんだって怒鳴られるんだよ。(汗を拭き)あれからオヤジさん、なんか言ってる？ 式のこと。それどころじゃないか、でも大正湯は休業しないんだろ？ オヤジさんの信念だもんな、銭湯は庶民の憩いの場。非常時だろうが何だろうが関係ない。いや非常時だからこそ必要なんだって力説してたもんな。オヤジさんはえらいよ。いや俺なんかこうやって廃材運んでるだけで、えらかあないよ。だけど皮肉だよ

な、疎開で打ち壊された家のおかげで銭湯が続けられるっていうのも。(間)きれいだね、夕焼け……まだ戦争が続いてるなんて嘘みたいだ。

ユキが抱きついてくる。

カラスが鳴いている。

卯三郎

だめだよユキちゃん、憲兵に見られたらどうするんだよ。

(と言いながら抱きしめる) ユキちゃんッ。

とそのままポストに隠れる。

ややあって役場の兵事係が来て、大角卯三郎の名前を呼ぶ。

卯三郎、慌ててポストの後ろから出てきて敬礼し

卯三郎

はいッ、大角卯三郎は私であります。……はい、ありがとうございます。……頂戴いたしますッ。

と一礼して召集令状を受け取る。

音楽「出征兵士を送る歌」の一番が高らかに。

卯三郎、兵事係が見えなくなるまで見送り

卯三郎

ユキちゃん、もう大丈夫だよ。……うん、また来ちゃったよ。今度は南方だろうな。お国のためにいや、ユキちゃんのために立派に戦ってくるよ。……死なないよ、そんな簡単に死んでたまるか、必ず生きて、生きて帰ってくるよ。それよりユキちゃん、アメリカの空襲が本格的になるっていう噂があるんだ。毎日ラジオを聴くんだよ。空襲の情報が流れるから。警戒警報が出たらすぐ防空壕へ。……お客がいたってすぐ隠れなきゃだめだよ。あつ、それと煙突……いやこれも噂だけど、軍需工場の煙突と間違われるんじゃないかって……銭湯の煙突だって分かるように……そうだ、赤十字の旗を煙突の先にくっつけよう。どう？ 名案だと思わない？ よし、すぐオヤジさんに言おう。え？ もう一度？ わかった。

とポストに隠れる卯三郎。
暗転。

スクリーンに映し出される当時の映像。

B 29の空襲に始まり、フィリピンでの激戦。

その映像にかぶせて卯三郎のナレーション。

N

噂は全て本当だった。その年の十一月から始まった空襲は日増しに激しくなり、東京は見る見る焼け野原になった。銭湯の煙突も **B 29**の標的になったって話だ。

フィリピンの日本軍も悲惨だった。アメリカの圧倒的な攻撃に晒され、敗退に次ぐ敗退。俺のいた部隊も山の中へ逃げ込むしかなかった。ある日、中隊長から負傷兵を野戦病院へ運ぶ命令が下ってな。俺は正直、助かったと思ったね。頑張れ北村、もうすぐ野戦病院だぞ、お前は若いんだからすぐ治るよ。そしたら内地へ帰れるんだぞッ。旨いもの腹いっぱい食えるんだぞッ……おい、どうした、しつかりしろ！ こんなところでくたばるな、もう一回聞かせてくれ、ガマの油を。柳好の門を叩くんだろ、北村ッ、ガマ

の油やってくれよ！四六、五六はどこでわかる。前足の指が四本、あと足が六本、これを名づけて墓蟬噪は四六のガマ……北村ア！

暗転の中、玉音放送が――。

N

そして昭和二十年八月十五日、日本は三百万人を越える犠牲者を出し、降伏した。俺が内地の土を踏めたのは、その一年後だ。

玉音放送がFO、田端義夫の『かえり船』が聞こえてくる。
暗転。

昭和二十一年七月の大正湯。

開店前。ポスターも変わっている。

戸が開いてボロボロの復員兵の卯三郎が入ってくる。

卯三郎

あつオヤジさん、大角卯三郎、フィリピンのルソン島より只今帰ってまいりました。……しかし無事でよかったですね、オヤジさんも、この銭湯も。結局あの旗は……いやいいんです。無事なら。全滅？ そんな報告が入っているんですか、ま、部隊の九割が戦死すれば全滅って言われても仕方ないですが、自分はこの通り九死に一生を得て帰ってまいりました。いやあーホントにすごい所でした。(とりリュックを降ろし) そうなんですよ、あの時期に敵の飛行機や潜水艦をかいくぐって、ルソン島に着けたことがまず奇跡的でした。着いてホッとしたのも束の間、そりやもう地獄でした。海からは艦砲射撃、空からはグラマンの機銃掃射。一瞬たりとも生きた心地は……でもいいなあこは。オヤ

ジさん、やっぱり銭湯は憩いの場ですね、これ、お米、ヤミで手に入れました。ところでユキさんは……え？ 嫁いだ？ 嫁いだって結婚したってことですよね、オヤジさん！ そんな馬鹿な……僕は生きてますよッ、この通り、あんまりじゃないですか、オヤジさん。お米返して。(と米をリュックに戻し) 何のために僕は……(と涙ながらに) ……もう駄目だって何度も思いましたよ、でも日本に帰ればユキさんが待ってる、こんな所で死んでたまるかと……歯を食いしばって、いやそんな生ぬるいもんじゃない、ジヤングルの中を何も食わずに四日間、さまよったこともありません。最後は戦友の靴を煮込んで食べようとしたことも……ホントに結婚してしまっただんですか、オヤジさんッ。

戸が開いてオヤジ出ていく。

卯三郎

すまんって……(ガックリ膝をつき) ああ……来年の今月今夜のこの月を、きっと僕の涙で曇らせて……。

戸口から赤ん坊の泣き声。

卯三郎

ユキちゃん（と振り返ると）あ、おばさん……ご無事で何よりです。はい、僕も何とか……その子はもしかして……そうですか（ボソツと）諦めが早いよユキちゃん……いえなんでも、名前は？ 愛子、へえーいい名前ですね。（と顔を近づけ）アババババ。

とあやすと余計に泣き出す。

卯三郎

（離れて）ユキちゃんは……そうですね、会わない方がいいですね。ええ、仕方ありませんよ、きつと日本中に僕みたいな可哀想な男がたくさんいるんでしょうね。誰が悪いんでもない、みんな戦争が悪いんです。……それでは（と行きかけ）あ、これ白米です（と縁台に置き）それから、これ、ショートケーキ、闇市で売ってたんで（と縁台に投げ）……ちよつと硬くなつてますけど……じゃ。

N

卯三郎、しみじみ銭湯をながめ、名残惜しそうに去っていく。

音楽『二人の絆』（ハロルド・メルビン&ブルー・ノーツ）

暗転。

音楽の中で

あの時はホントに力が抜けたねえ。闇屋で儲けた金で毎晩飲んだくれ、バクチと女に明け暮れた。ハハ…：米兵を半殺しにしてクサイ飯も食った。だがね、学生さん、どん底を見た人間は怖いもの知らずだ。最悪上等、死に物狂いで働いたよ。宝石のブローカーに始まって、キャバレー、クラブ、不動産…：気がついたら俺の会社は十社を超えていた。そして再びこの銭湯にやってきたのは、バブルがはじけた一九九一年、七十二才の時だった。

銭湯に渋いコートに黒のソフト帽を被った卯三郎がポスターを見ている。やおら浴場を見始めると、男湯の戸が開いて、中年になった愛子が入ってくる。

卯三郎

（振り返り帽子を取り）愛子さん？ 大角卯三郎です。手紙をお出ししたんですが、返事がなかったの、勝手に来てしまいました。（愛子が一礼）いえ、返事に困るのが当たり前です。私は先々代、つまりあなたのおじいちゃんの代りに来た単なる客ですからねえ。でも戦時中はちよつと手伝ったこともあるんですよ。ええ、あの頃は風呂を炊く薪にも事欠く時代で、あ、聞いてます？ はい、リヤカーでよく運びました。あと煙突掃除とか、とにかく男はみんな兵隊に取られてましたから。……早いもんです。あれからもう四十五年ですか、復員した時あなたに一度会ってるんですよ、まだオギヤーオギヤーと泣いてた頃ですが。……そうなんです、手紙にも書きましたが、この銭湯をやめる

と風の便りで知りまして、いや、バブルがはじけてどこもかしこも悲鳴をあげている昨今、ましてや銭湯の経営は大変だと思います。私の会社も半分倒産してしまいました。ハハ……ええ、バタバタバタと将棋倒しみたいです。……それでご相談というのはですね、いや、お茶なんか結構です。私はね、愛子さん、先々代がよく言っていました、体がきれいになれば、心もきれいになる、銭湯は庶民の憩いの場、なくしてはいけないものだと思うんです。この大正湯を私に譲ってもらえませんか？ 勿論、運営は今まで通り愛子さんが女将さんで、ご主人と従業員の方はそのまま居ていただいて、私は、ま、オーナー兼雑用、たまに番台に座らせてもらえれば、いや会社はもう全部息子と娘にあげちゃいました。……そうですね、ご主人とよく話し合っ
て決めてください。(行こうとする愛子に)あの、それからもう一つお願いが……お母さんに線香をあげさせてください。え？ あ、お母さんとは……(少し微笑み)知ってたんですか……。

音楽『二人の絆』が再び流れて暗転。
スクリーンに一九九一年から現在までをつづるス
ライドが映る。

現代に戻る。

卯三郎のカルタを読み上げる声が聞こえてくる。

卯三郎の声『石の上にも三年は昔の話』今の若いのは三ヶ月辛抱したらいいほうだよな。(パンと取る音)はい、加代さん今日は調子いいね、次ッ『気をつけよう、暗い夜道と訪問販売』とにかく高齢者の預金を狙う輩が多いんだから。知らない人が来たら絶対ドアを開けない、いくらいい男でもダメ。まだ？よく見てよ。

照明つくと卯三郎、縁台に座ってる。

卯三郎 『気をつけよう、暗い夜道と訪問販売』(パンという音)ツルさん、よかったねえ取れて、あんた一枚も取れない日もあるもんねえ。気をつけなくちゃいけないのは訪問販売だけじゃないよ、宅配業者にも悪いのがいるから、頼んでも

いない物を勝手に持って来たりさ、トヨさん大丈夫？　そう、じゃ次、『良いネタの　宝庫は築地と　週刊文春』（パン）おっ早いね、キヨちゃん。さすが最年少八十才。（週刊文春について一言）ハイ、次！

戸が開く。

卯三郎

おっ学生さん来たね、あんたも入る？　カルタ大会。そうそう、こいつら、いやこの婆さんたちが白百合婦人会、どう見てもシワクチャ婦人会なんだけど、ハハハ。平均年齢が確か八十六？　最高齢はあそこにいる久ちゃん、百三才。ま、こうやって遊びながら脳トレしてるわけよ。だからみんな元気だろ？　多少はボケてるけどさ。早く早くつてるせえな、（学生に）あ、そこで見てる？　あ、それからコレ俺が作ったカルタなの。よし、次行くぞ『憧れのハワイ航路は岡晴夫』（冒頭の歌詞を1フレーズ歌う）（パンパン）ああ、喧嘩しないの、今のは久ちゃんが早かったかな。じゃあ次いつてみよう。

『歩きスマホ ジジイは急に 避けられない』

『サバを読む 妻は体重 車は燃費』

『遂に決定 熟年離婚と エンブレム』

『忘れるな 火の元 戸締まり 聖火台』

『遺言状、書いた方がいいが見当たらない』

『沖縄の基地を移そう東京に』※ご当地かるたが有る時はカット

『どこの誰かは知らないけれど、誰もがみんな知っている』

♪近藤よし子、キング子鳩会『月光仮面は誰でしょう』の一部を歌う

卯三郎

おっ、ツルさん今日二枚も取ったの、すごいねえ。よし、カルタはこのくらいにしよう、血圧上がってここで死なれても困るしな。第二部は勿論、カラオケ大会だよ、ちょっと八重ちゃん、なに脱ぎだしてるの着て着て（耳元で）こっからカ・ラ・オ・ケ・ツ、歌うんでしょ今日も。（学生に）歌はいいよ、ボケ防止にもなるし。このメンバーは全員一人暮らしなんだけど、家じゃテレビばかり見てるらしいんだ。それじゃダメだよ。年とっても自ら行動しなきゃ、ここならいくらでっかい声で歌っても文句は出ないし

ね。学生さんも後で歌う？ あそう。さあ、カラオケ大会始めるよ。勿論初っぱなは俺からだ。リクエストなんか受付ねえよ。懐メロはもうあきたッ、今日はちよつと変わったところで『もだえ』って歌を歌う。誰の歌って、言っても知らねえと思うけど、マリア四郎って歌手、紅白なんて出てねえよ、売れてねえ曲の中にもいい曲はあるの。第一タイトルがいいだろ、もだえだよ。みんなに若い頃を思い出してもらおう！

とラジカセのスイッチを入れる。

『もだえ』のイントロが流れる。

♪マリア四郎の『もだえ』の1番の歌詞を歌う

(ツルが倒れてる)

どうしたツルさん、具合が悪い？ 誰か救急車！ ……
ちよつと刺激がつよかったかな。

暗転。救急車のサイレンが遠のき、やがて明るくなる。(短く時間経過)

バアさんたちは帰り、女子大生と二人になる。

卯三郎はラジカセを戻しながら。

卯三郎

みんな可愛いだろ？ 女はいくつになっても恥じらいと愛嬌がなくちゃだめだよ、ねえ。死ぬまで楽しいこと見つけていかなきゃ、つまんねえよ。えっ？ ジジイはいいよ、ジジイは文句多いし、すぐひがむだろ？ 老人ホームでバアを取り合って血みどろのケンカになった話があったよな、みつともねえよまったく。…男の業なのかね、奪い合うっていうのは。考えてみりや戦争もそうだもんな。なんだかんだもつともらしい理由をあげてるが、つまるところは奪い合いだろ。俺は国益って言葉を聞くとゾツとする。…そんなこと考えたこともねえな、あいつらの分までな

んで、長生きしたのは俺の寿命。でもあいつらは寿命じゃねえ。あれは……殺されたんだ。そんな奴らに報いるには……精一杯まっとうに生きるしかねえよな。

番台の電話が鳴る。

卯三郎

（受話器を取って）はい、大正湯でございます。なんだお前か、暇じゃねえよ、金の話なら（学生に）ちよつとゴメンね。（電話に）金の話ならお断り、何べんも言わせるな。……そんなにヤバイなら潰しちまえ、……そんなの関係ねえよ、お前たちにやったもんなんだから。お前らの好きにしたらいいだろ。もうお前たちにやるものは何も……株？残念でした。株は全部売っちゃまって、熊本地震の義援金に回した。寄付金とは違うぞ。被災者の皆様に直接渡されるお金が義援金だ。全額だ。嘘じゃねえよ。葬式もな、こっちで出してもらおうから心配しないでいいぞ。……おい、これだけは言っとくぞ、お前も男なら腹くくれ。売れるもんは何でも売って、それでも返済しきれなかったら地べたに這いつくばって謝るんだ、いいな。分かったなッ邦雄。……。

と電話を切る。

卯三郎

ハハ……どうしようもねえ息子で……お恥ずかしい。やっぱり人間、苦勞しなくちゃだめなんだね。学生さん、今日は何の話しようか。セントウ？ セントウって戦う方の戦闘か。……そんな話、なんで訊きたいんだよ、戦場は地獄、この一言に尽きる。なっ。……そりや向こうだってこつちを狙ってるんだから、撃つよ。当たったかって？ もうやめよう、ホントに。今日はさ、あんたの話を聞かせてよ、たまにはいいだろ？ つまらねえかどうかは聞いてみなくちや……。真面目ってのは大事だけどさ、真面目一方ってのはどうなの？ いや男を作れなんて言わないよ。なんかへんな方向へ行きそうだから、やめよう。差別なんかしてねえよ、女がいなきやこの世は闇だと、いや下にも見てねえよ、どうしたんだよ本当に。(間)勝ち組とか負け組とか考えた事は……俺は俺の生き方を全うしたただけだ。そりや負けるのは大嫌いだよ、だから戦争に負けたのも悔しかった。……今でも時々夢に出てくるよ。フィリピンの戦場は

悲惨なんてもんじゃねえ。死んだ日本兵は五十万人だぞ！
「アイ・シャル・リターン」と言つてオーストラリアへ逃げたマツカーサーが、レイテ湾タクロバンに上陸してきたのは、一九四四年の十月だ。

砲撃、銃撃戦の音。

卯三郎

日本軍は占領したフィリピンを奪回されまいと戦つた。自活自戦、永久抗戦。できるだけ長く抵抗し、援軍を待てッ。しかし誰も援軍が来るとは思つちやいねえ。俺たちは戦友の屍を踏み越えサラクサク峠に着いたのは翌年の三月だ。約三ヶ月、戦いは続いたがまたしても敗退だ。俺たちは山の奥へ奥へと逃げた。敵は人間だけじゃない、飢えと病気でバタバタと死んでゆく。負傷した兵隊の中には退却する部隊についていけないと、自決した者もいた。

砲撃、銃撃戦の音が消え

卯三郎

もういいよな。……息子達に？ 戦争の話はしたことはねえな。話したくなかった、それだけだ。今日はからむね、学生さん。男同士なんてそんなもんだよ、……生き方なんか教えねえよ、俺の背中を見てりや分かるだろ、焼け跡だらけの日本を、見事に復興させた俺たちの背中を見てりや！ でもこのザマだ。あいつら何にも見てなかったんだ。……いい気なもん？ この俺が？ どこがいい気なもんだ、この平和な日本でのうのと暮らせていられるのは誰のおかげだと

番台の電話が鳴る。

卯三郎

(受話器を取り)おお徳さんか……どうした？ 現れたか、庭に？ 分かったすぐ行くッ(と切り)よし突撃だ、ブラシ、ブラシ……え？ とつちめるんだよ、ゴミ屋敷のモグラジジイを。いや、ありやゴミ屋敷なんてもんじゃねえな、敷地の周りにクツサイゴミ積み上げて誰も寄せ付けねえんだ、あれはゴミの要塞だ。その要塞からめつたに表に出て

こねえんだが、月にいっぺん、庭のちよつとしたスペースでな、ゴルフのスイングしやがる。やっぱり体がなまるんだろうな、いやそんな話、してる場合じゃねえんだよ。今行かねえとまた要塞に、ブラシはどこだ？（と探しながら）今日という今日は、あった（とブラシを見つけ）これで脳天カチ割ってやる。話し合い？ 何度も行ったが話に応じる気なんてこれっぽっちもねえよ……大体警察、役所がモタモタしてるから俺が出張るんだろッ、止めるんじゃねえ！（と行こうとするが）

学生が戸の前に立ちはだかる。

卯三郎

何やってんだよ。どけよ。じゃあ訊くがね学生さん、あなたは御近所の住民の苦しみに対し、何とも思わんのか？ 御近所の皆さんがここでこぼすんだよ。あの匂いは我慢できないうって、本当にご苦労されているんだよ。だから俺が行って、そうだよッ、……何？ 軍隊みたい？ 馬鹿なこ
と
言
う
な
ア
！

ジャングルの中の記憶が甦る。

卯三郎

きさまら、それでも帝国陸軍の軍人かッ、死ぬまで戦え、生きて日本へ帰れると思うな！ あの将校の突撃命令のせいで、戦友は虫けらみてえに死んでった。……軍隊なんかクソくらえだ！（悔しさに震える）

戸が静かに開く。

卯三郎

お、クララ……今度フィリピンに帰るとき、おじいちゃんも連れてつてくれ、な……。

クララが胸に飛び込んでくる。優しく抱きとめる卯三郎。

卯三郎

そうかそうかありがとう、おじいちゃんもいい歳だからな……さあ、そろそろ開店の準備しないと。〔学生に〕行かねえよ、突撃は中止だ。そのかわり、あのモグラジジイこ

こへ引っ張ってきて頭からゴシゴシ洗ってやるッ。体がきれいになれば心も……この広い宇宙で、青く輝くこの星だけだよ、人が生きてるのは。それなのに、どうして争い、憎しみ合うんだ。……学生さん考えてくれ、どうしたら、もつとましな世の中になるか。(帰って行く学生に)ん？ ……
：そうかもな、さよなら。

と見送り、番台へ。

卯三郎

この銭湯を守ることがおじいちゃん(愛子さん)の正義ですね、だつてよ。(満更でもないが)あの富士山、ちよつと剥げてきたね、え？ 馬鹿なこと言っちゃいけねえよ。あんな小娘に惚れるわけ……それに俺は頭のいい女より、何がおかしいんだよ。この際だから言うけど、俺はまだ現役、ヒヒヒ……この間なんか色目使われちゃった、あの娘はまだ五十代かな、年の割にはウエストがキュツとくびれててよ、たまんねえんだよ。やっぱり付き合うならあの年頃の女がいいな、若いのはいけないよ。別れる時に生きるの死

ぬのと事が大袈裟になるからな。と行って、他人のカミさんじゃ罪になるしな…、看護婦やスチュワーデスは忙しいしな…、芸者やホステスは浮気っぽいしな…誰もいないな。いるよ、重役のお抱え者かなんかで、お清なんて、おしゃべりな女中に湯上りのタオルかなんか持たせてカラシロンカラシロンってやって来るよ。このお清がおしゃべりだから、

「ねえ、おかみさん。大正湯のお爺ちゃん粋な人ね、あたし好きよ」なんて言うと、おかみさんが、

「あたしも好きよ」なんて…、こういうのは以心伝心ってやつで、こっちにも伝わるから、何くれとなく、そのおかみさんに親切にしちゃう。

「あ、おかみさん。着物のザルは中に入れてない方がいい…出しといた方が衛生にいいから…他人のは盗られても、あなたのだけは見ときますから」

「まあ、御親切な方。面白い事おっしゃって、お暇がございましたら、宅にお遊びにいらっしやいましたな」なんて言われるから、店が休みの日、おつななりをして、そのおか

みさんの家の前を通りかかると、女中が見つけた日にや大変だよ。始終噂してるから、

「おかみさん！ おかみさん！ お湯のお爺ちゃんを通る！ お湯のお爺ちゃんを通る！ お湯のお爺ちゃんを通る！ お湯のお爺ちゃんを通る！」って、火事場のような騒ぎ、おかみさんも嬉しいやら、こう、泳ぐ様に来るよ！

「まあ、お爺ちゃん。おつななりして、どちらかお出かけ？」

「ええ、腹が空いたもんで、うどんかけ喰いに：うどんかけってのは色っぽくないな：お袋の墓参りに」

「まあ、そんなお年でお母様の墓参りだなんて、なんて優しい御心掛けでしょう」なんて、ここで又、とんとくるよ。

「まあ、ちよっとお上がんなさいよ」上がりたいたいののはヤマヤマだけど、ここは一旦は断るよ。

「いえ、今日はちよいと急ぎの用なので、又、日を改めて」なんて言うとおかみさん、絶好のチャンスだから、俺の手なんか握っちゃって、

「いいから、お上がんなさいよ、お上がんなさいって」

「いえ、今日は…又…」
「そんなこと言わないで、お上がんなさいよ！お清何して
るの、お爺ちゃんの背中押さないかい、お上がんなさいな、
お上がんなさい…」

開店の音楽『丘を越えて』（ハーモニカ演奏）が聞こ
える中、穏やかな時間が銭湯を包み込む。

〈幕〉

2016/05/09 改訂

参考資料

「太平洋戦争 下巻」 児島襄 中公文庫 1974